

〔A〕次の文の〔 〕の部分を読み、また傍線部をわかりやすく言い換えなさい。

1 日本全国「あまねく」電波を到達させ、ビジネスとしても成長の軌跡を描いてきた。(須藤春夫・「テレビ」に残されたもの 参加するメディアとして) 322 1

2 これが、現代が神話を云々し、【なかんずく】神話を文学論のレヴェルで問う場合の核質部ではないか。(高橋英夫・神を見る) 321 2

3 日本人が無常を語るとき、【おしなべて】美的に詠嘆調になり、涙もろくなる。(宮元啓一・超ロジカルな人々の国インド) 324 3

〔B〕次の文の傍線部をわかりやすく言い換えなさい。

4 余談はともかく、冷静に考えてみれば、若者論があげつらうような「乱れた若者」は、間違いないどの時代にもいたはずだ。(斎藤環・思春期ポストモダン 成熟はいかにして可能か) 333 4

5 確かにこんなときには、自分の意図を理解されなかったことへの寂しさを込めて、思わず「蓼食う虫も好き好きなのさ……」などとうそぶきたくもなる。(岡田暁生・音楽の聴き方 聴く型と趣味を語る言葉) 335 5

〔C〕次の傍線部の意味を後から選びなさい。

6 音楽の場合、商品化の歴史を垣間見るには、モーツアルトの伝記を思い出すのが好都合です。(佐々木健一・美学への招待)

①とぎれとぎれに見るには ②ときどき見るには ③ちらっと見るには

④余裕をもって見るには 339

6

7 音楽を語る言葉がややもすると間投詞のようなものに接近する理由は、このあたりにあるのかもしれない。(岡田暁生・音楽の聴き方 聴く型と趣味を語る言葉)

①黙っている・じっとしていると ②いつの間にか・知らないうちに

③どうかすると・ともすると ④やたらに・不必要に 326

7

8 そのような言語多様性をないがしろにするかに見える英語への一極化も同様に、「普遍性」概念の行きすぎた適用である。(茂木健一郎・疾走する精神)

①ないことにする ②あざ笑う ③怖がって恐ろしいものと考え ④あなどり軽んじる 336

8

9 よし空にまで雪の白さが透けこんでいるような、そしてその淡い青みが雪をほのかに彩る空の色と和音を奏しているような、そういう色の階調を得た画家が西洋のどこかにいたとしても。(江藤淳・海老原喜之助の回顧展―短い滞日中の幸福な体験―)

①たとい・仮に ②さらに・いよいよ ③まるで・さながら ④たまたま・ちょうど 327

9

10 現実にかすという至上目的を達成するために、政治はいきおい人間性の全部面にタッチすることになるのである。(丸山眞男・人間と政治)

①はずみで ②当然の結果として ③一気に ④的外れに 330

10

〔D〕次の語(句)の読み方を答えなさい。

11 闇雲 329

11

12 往往にして 338

12

13 所謂 332

13

14 呈する 338

14

15 気色ばむ 337

15

- 1 「広く」
2 「とりわけ」
3 「一様に・だいたい」
4 「とやかく論じるような」
5 「とぼけて知らないふりをしたくもなる」
6 ③
7 ③
8 ④
9 ①
10 ②
11 「やみくも」
12 「おうおう」
13 「いわゆる」
14 「てい」
15 「けしき」